

## 放送大学面接授業「三浦半島のバイオジオツアー」を受講して

同窓会会員：石橋正彦

投稿日：2015年2月9日

2014年11月20～21日に実施された多摩学習センターの面接授業「三浦半島のバイオジオツアー」を受講し、主として三浦半島の地質について、また海洋生物についても学んだ。担当講師は放送大学および神奈川大学非常勤講師・元海洋研究開発機構（JAMSTEC）海洋地球情報部特任上級研究員の藤岡換太郎博士。またむつ市のむつ科学技術館元館長の杉沢典孝先生が補助講師、さらに JAMSTEC での藤岡先生の人脈で、横須賀市自然・人文博物館柴田健一郎学芸員と萩原清司学芸員、京急マリンパーク飼育部 岩瀬知成氏、新江ノ島水族館展示飼育部魚類チーム 根本 卓学芸員 其他の方々が説明などにあたって下さった。

講義（巡検）は京浜急行横須賀中央駅集合に始まり、バス（ガイド付き）で全コースを回った。まず、横須賀市自然・人文博物館へ行き、三浦半島の断層など特徴的な地質について説明を受けた。三浦半島は現在でも年間数mmの隆起が認められる地殻変動の活発な地域で、日本の中でも活断層のとくに多い地域の由。北から衣笠断層帯、北武断層帯、武山断層帯、南下浦断層帯、引橋断層帯の5断層帯が東西に横たわっていて、これら5枚の断層帯はトレンチ調査や周辺海域の調査から半島全域でこれまで3回の大地震があり、さらにすべて活断層帯で、とくに北の3断層帯は数100年以内に大地震が起きる可能性を含めているとのこと。三浦半島の地層の剥ぎ取り標本、三浦半島の岩石、床に大きく展示された典型的な地層の写真など、説明と共に展示を見ていったので、興味を持って見学することが出来た。

以下2日間にわたって巡検した地層のうち、印象的であったものについて記す。



荒崎海岸は隆起海食台が広がっており、地層を観察するのに適したところである。荒

崎の海食台を作る地層はスコリア層（玄武岩質ガラスからなる砂礫の層）とシルト岩層（海底に堆積した泥岩の層）のきれいな岩脈を見ることが出来た。



またスコリア層の火山灰層にはきれいな火炎状の生痕も見られた。



海外町ではきれいな波調層を見ることが出来た。これは平行層理の中にリップルマーク（漣痕）が正しくうねった構造で、県指定の天然記念物に指定されている。



黒鯛込では横須賀の博物館の床に写真で示されていたデュプレックス構造（ある同一の地層が衝上断層によって何度も繰り返して乗り上げた地層が衝上断層によって周りが完全に囲まれているもの）が観察できた。



古い時代に起こった地震による液状化現象がそのまま岩化した注入構造。

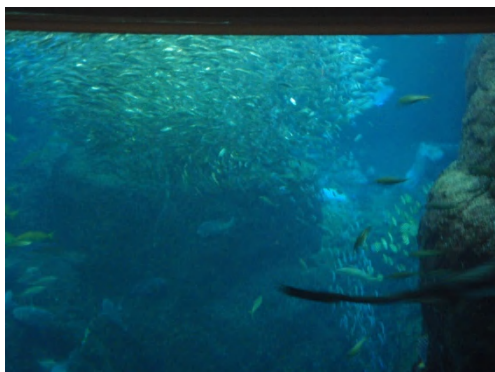


褶曲による典型的な構造の変化（スランプ）。これは「海外町のスランプ構造」として県指定の天然記念物とされている。



棒状やパイプ状の痕跡が火山灰層に見られたが、これは生物の巣穴や這い痕が化石として残された生痕化石である。

バイオ部分では JAMSTEC からの藤岡先生の人脈で学芸員諸氏の説明を受けることが出来た。油壺マリンパークではサメ類の展示などを自由に見た後、展示水槽の裏側に行き説明を受け、また回遊層を上部から観察し、展示法の苦心談などを伺った。



また新江ノ島水族館では根本卓学芸員から深海関係の生物や深海探査艇「深海 2000」の展示につき説明を受けた。根本氏は年内に新しい「しんかい6500」に搭乗し、探査研究に従事するとのことであった。

(付録) 民宿でぐち荘に宿泊したが、夕食のマグロ料理(兜焼き、白子の煮物、胃の煮物、心臓の串焼きなど)は始めて食べるものばかりで圧巻であり、さすが三浦半島だと思った。



## 感想

今回の面接授業「三浦半島のバイोजオツアー」はアウトドアの講義を受けたいこと、幼少時より住んでいる神奈川県についてもっと知りたいこと、などから受講申請をした。私の専門は生物系であることから、これまで“バイオ”については関心を持ってみてきたが、“ジオ”については、自然科学分野でも全く未知の分野で、やや野次馬的な関心しか無く、真剣に学んだことはなかった。今回三浦半島を主として地質学の観点から見て歩き、既に何回か三浦半島、城ヶ島など観光的に歩いた経験があるにも拘らず、海岸にこのような美しい、あるいは素晴らしい地層や地質が存在するとは驚きですらあった。知らないこと、新しいことの連続ばかりであったのが、正直な感想で、また嬉しい“意外”であり、知らないこと、新しいことを沢山学び、知らされたことで収穫の多い授業で、この講義に参加出来たことをとても嬉しく思っている。

前期に面接授業で講義した内容の“実習篇”であったとのことであったが、講義は時間の都合で受講できなかったため、地質学に関する用語に関する知識すらなかったため、わからなかったことも多かった。事前に送られてきた案内では受講料支払い後、実施7日前までには予習のための資料が送られることが明記されていたにも拘らず、送られてこなかったため、多摩学習センターに問い合わせたが、資料は当日配布であった。配布された「巡検ガイド」が事前に配布されて予習が出来ていればもっと解説が理解できたことと思うとその点は残念であった。

三浦半島は地理的には遠い存在ではなかったにもかかわらず、「関心を持って見ないと、人は見ているものを見ていない」ことを改めて思わされた。身近に素晴らしい自然があることを知ったことが最大の収穫といえよう。また同時に断層というのはいつも“活断層”であることを知り、地震対策、あるいは原子力発電所の再開問題などに新たな観点から考える要因が与えられた感がある。

それにしても集合地点までの交通費を含めると1単位約4万円というのは、放送大学では破格の受講料ではないだろうか。他のアウトドア科目はほとんど常に受講希望者が多いため抽選になることを思うと、受講者11名というのは異例といえよう。おそらく、特に若い人達は経費の点で受講を取りやめたのではないだろうか。以前私が面接授業を担当した際は講義担当者、講義補助者さらにはガイド分まで受講者に経費を負担させることはなかった。今回は受講者の払った経費の中にどこまで含まれているのか、疑問に思った。